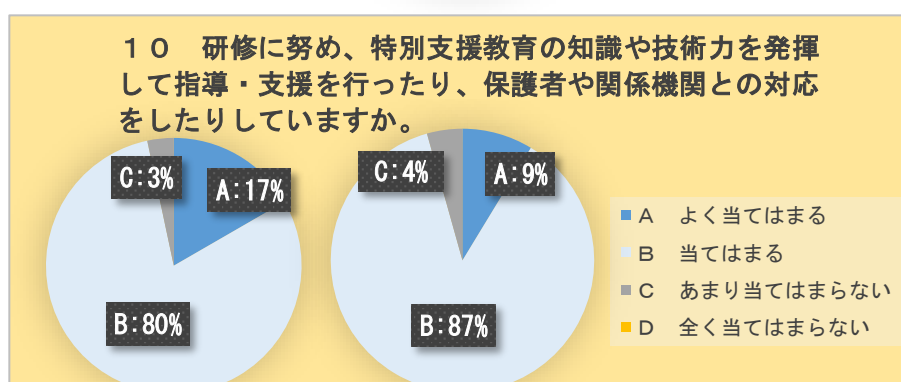
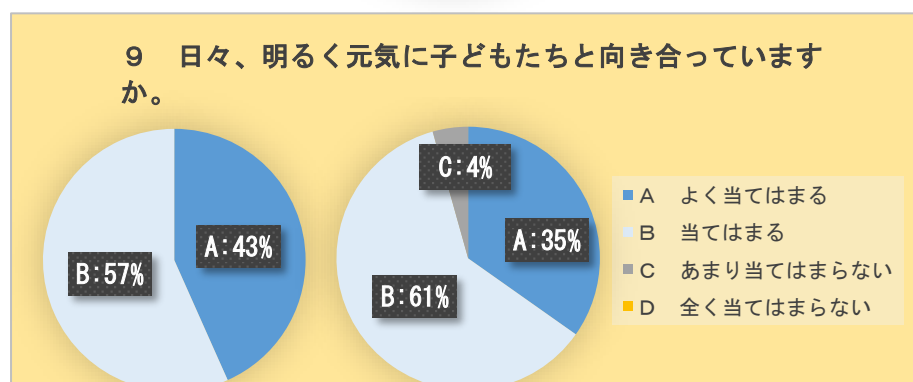
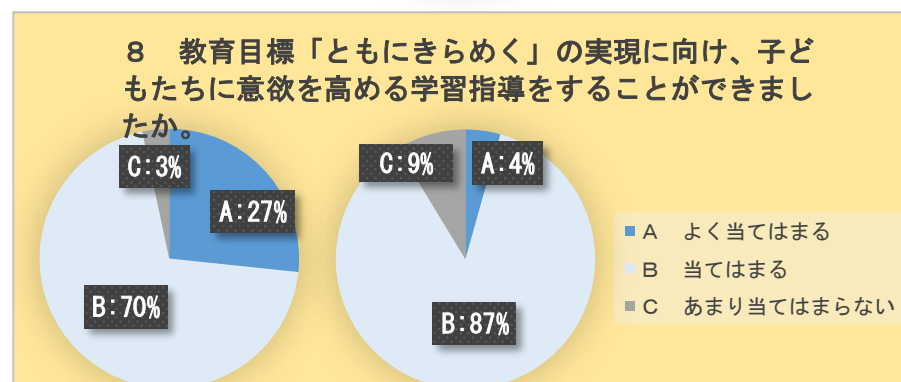
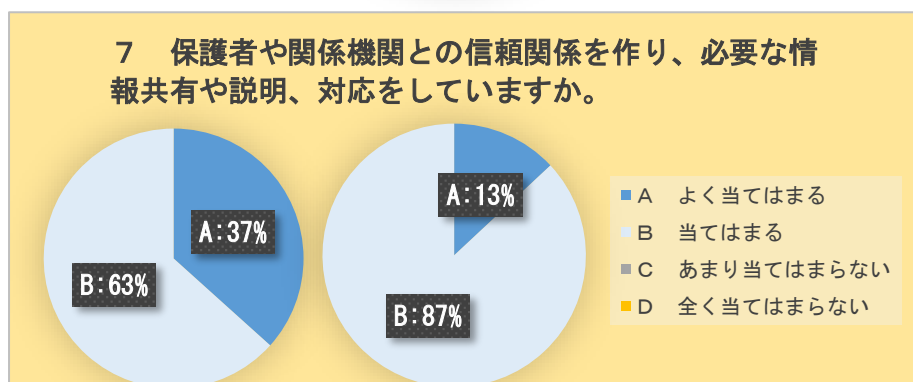
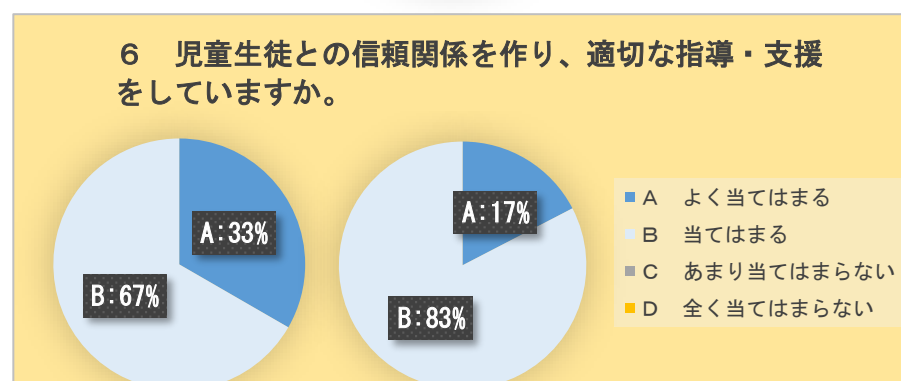
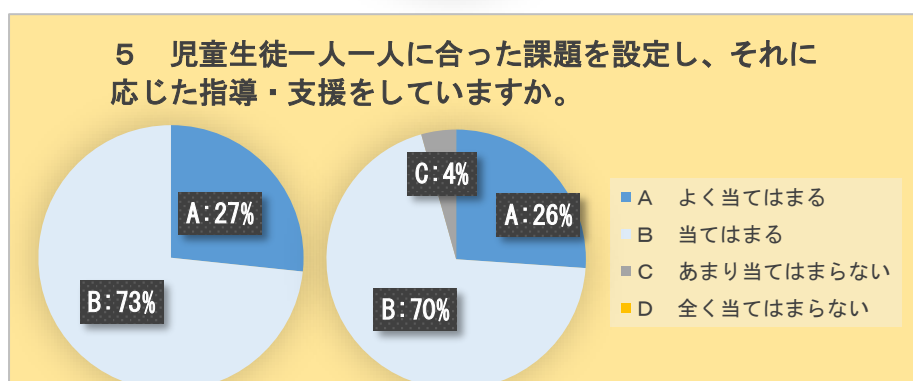
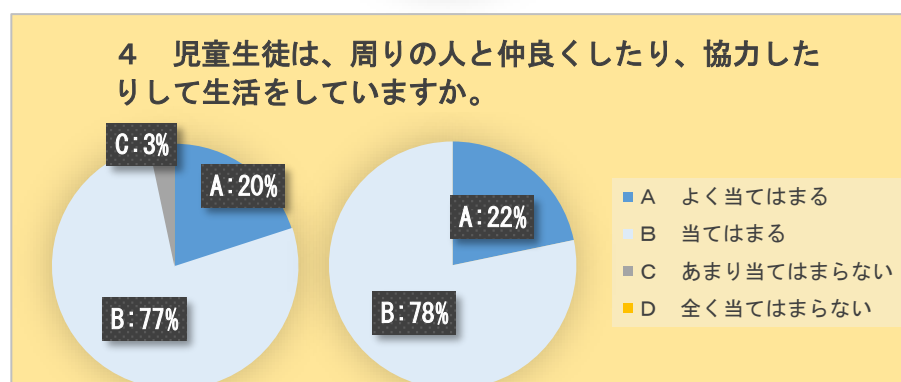
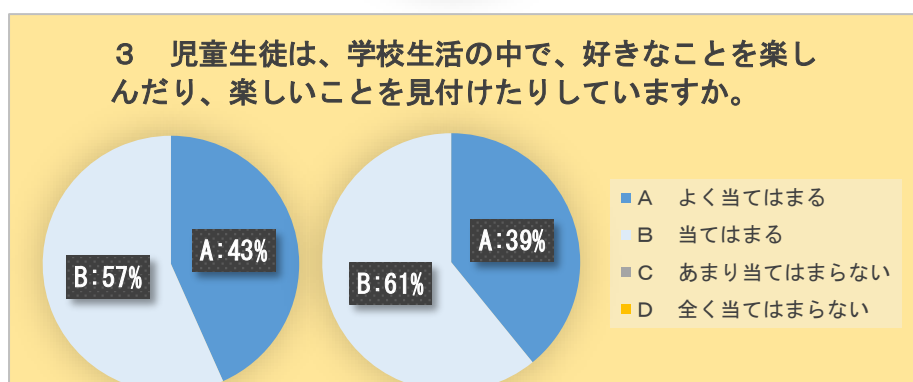
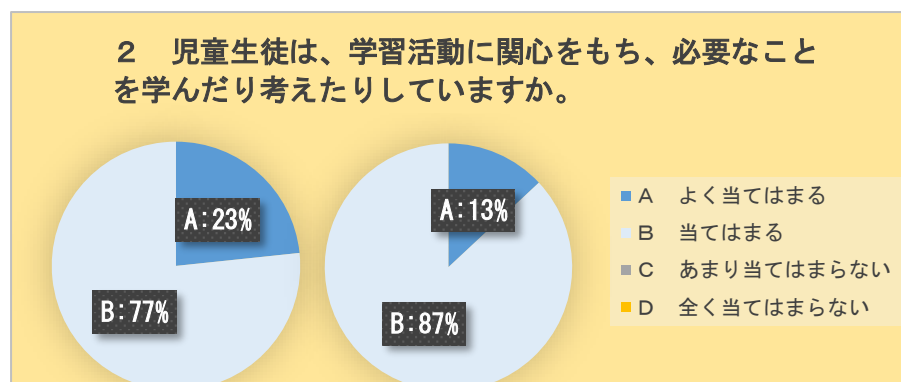
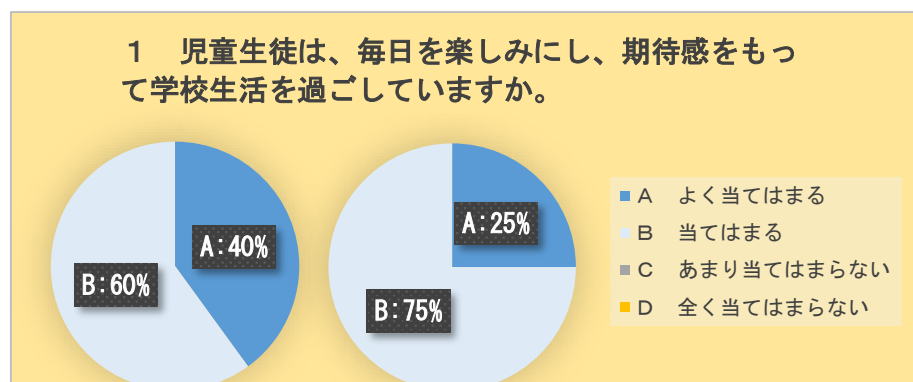


令和5年度 学校評価アンケート（教職員）集計結果

1 回答の集計結果 <左：前期（7月）、右：後期（12月）>



○全ての回答はほぼ肯定的な評価（A 又は B）だが、後期は全体的に B の割合が増加し、A の割合が減少した。

○数項目（項目 5・8・9・10）で否定的な評価（C 又は D）が増加した。

○項目 4 では、否定的な評価がなくなった。

2 考察

○多くの職員が日々の教育活動について合格点と考えているが、より意欲的に学習に取り組ませるための方策や保護者や関係機関との連携など、まだ改善できることがあるという思いをもっている。（全項目）

○学年学部の枠を越えた活動や協働的な学習の取り組みが児童生徒の心の成長に繋がっている。（項目 4）

○児童生徒の障害や特性の多様化により、教育課程も含め、児童生徒の実態に合わせて教育活動の見直しを行う必要がある。（項目 5）

○校務の効率化等、多忙化解消の取り組みを更に促進し、職員が児童生徒や保護者としっかりと向き合うことのできる時間の確保や精神的なストレスの解消を図る必要がある。（項目 6・7・9）

○「一人一実践」を中心とした校内研修等をとおして、教育目標「ともにきらめく」を具現化するために、更に一人一人の専門性を高めたり教育活動の内容を改善したりする必要がある。（項目 5・8・10）